

Web 交流会「地域の魅力を磨く・伝える」

開催内容

1. 日時：令和 5 年 12 月 14 日（木） 16：00～17：30
2. 場所：オンライン（Zoom）
3. 登壇者：

役割	所属	役職	氏名 (敬称略)
パネリスト	NPO 法人街にいき隊 PRO	代表	尾崎 篤志
パネリスト	株式会社エフエムもえる	代表取締役	佐藤 太紀
パネリスト	市民団体クスろ	-	須藤 か志こ
パネリスト	NPO 法人有珠山周辺 地域ジオパーク友の会	事務局長	三松 靖志
ファシリテーター	公益財団法人はまなす財団	部長	小倉 龍生

4. 交流会の様子

ア NPO 法人街にいき隊 PRO 代表 尾崎 篤志 氏

- ペットショップを父から事業承継し、商店街の近隣の店主たちと話す中で、自分たちがどんな事業を営んでいるのかの説明会を企画しました。そこから「街にいき隊」の活動が始まりました。1年目は18回、2年目は23回、焼き鳥の販売などの販促イベントを実施しました。
- その後、商店街振興組合の理事長となり、大学の先生やコンサルの方とともに、「街にいき隊」の事業計画を策定しました。その計画をビジネスコンペに4件応募し、3件採択となりました。そのタイミングで、任意団体から NPO 法人に組織変更し、地域の PR 冊子の制作など、外部の仕事も行うようになりました。
- そのとき制作した冊子がきっかけで、2014 年に宗谷総合振興局の、SOYA PARTY という地域の広報事業を受託することになりました。そこで、地域の人が地域の情報を発信するコンセプトで、冊子の制作と一緒に、当時珍しい SNS を活用した PR や、テーマソングの制作もしました。テーマソングは、NHK のニュース番組のエンディングテーマにもなりました。
- SOYA PARTY の事業をしている中で、礼文島の桃岩荘というゲストハウスが、大変人気で交流人口の拡大に貢献していることを知りました。それを参考にして、2019 年に「THE STAY WAKKANAI」というゲストハウスを開設しま



した。昨年は、一般財団法人北海道開発協会（以下、北海道開発協会）の助成金を活用し、キャンプキットの貸出しを始めました。これからは、自転車とのマッチングや、他団体との連携も画策しています。

- 人との出会いについて、このような交流会で知り合った方からお話を伺ったり、質問したりとか、商品を買ったり、佐藤さんのお話されていた花札も買いました。そのような機会でも、色々な人との出会いを大事にし、ネットワークをつくっています。

イ 株式会社エフエムもえる 代表取締役 佐藤 太紀 氏

- 総合まちづくり業ということで、建設、放送、観光と色々な事業を実施しています。留萌市には、大学卒業後にUターンし、まちづくりの市民会議等に参加していました。
- 放送事業では、「エフエムもえる」というコミュニティFMを運営しています。設立した理由は、市民会議などに参加する中で、地域の人が地域に向けて地域情報を発信し続けるメディアが必要だと考えたからです。この放送局は、地域課題を自分事化する市民を一人でも増やすことを目的にしています。
- 観光事業では、留萌観光連盟の事務局を運営しています。コンセプトは、観光客の目を通して、健全で精度の高い評価を得ることと、外貨を稼いで持続可能なシステムを作ることです。具体的には、手描きのマップの制作や、ヒラメの漁獲量を競うイベントなどを実施しました。また、「留萌はやるぞ」という本気度を内外に示すため、着地型旅行商品を販売する旅行会社の運営も行っています。その他には、道の駅るもいの管理や、留萌のフリーペーパー、留萌管内の特産品などをモチーフにした花札の制作などを行っています。
- 放送事業は、地域の情報と課題を集め、それらを解決する人のネットワークを構築するための内部情報の循環エンジンです。観光事業は、課題を解決するために必要な外部情報の導入エンジンです。それらが混じり合うことで、地域住民が持続的に地域への誇りを醸成し、外に向けて発信することができると思っています。
- 尾崎さんとは、黒松内で一度お会いして、改めてお話を聞いて、感動しました。フリーペーパーは、SOYA PARTYの情報発信のやり方を参考しています。



道の駅るもい
～留萌に行ったら「あそこに行こう！」をつくる
・年間33万人（毎年増加）
・経済波及効果＝134,000千円



ウ 市民団体クスろ 須藤 か志こ 氏

- 「市民団体クスろ」は、2014 年から、釧路に住んでいる魅力的な「人」をテーマに様々な活動をしています。具体的には、釧路の魅力的な人を伝えることと、それらの人々に会える場づくり、クスッとできる釧路のお土産づくりなどを行っています。
- 釧路の魅力的な人を伝える活動では、釧路管内に住む人を紹介するインタビュー記事を、web サイトで公開しています。また、web だけではなく、人を紹介するフリーペーパーを作成しました。
- 釧路の魅力的な人に会える場づくりの活動では、「ひとめぐり TOUR」として、伝える活動で紹介した方に会えるツアーを実施しました。具体的には、昆布漁師さんの昆布干し作業を手伝う企画などを行いました。
- クスッとできる釧路のお土産づくりの活動では、釧路にゆかりのあるものをモチーフにしたキーホルダーを 6 種類作りました。油そばのような、「無量寿そば」のキーホルダーを制作した際は、これをきっかけに、そばを食べにくる人が増え、売上も増加しました。最終的には、コンビニエンスストアで無量寿そばが発売されるなど、大きな波及効果がありました。
- 最近では、釧路の懐かしい味を掘り起こす、「釧路フッフッフード」の活動をしています。「#釧路フッフッフード」というハッシュタグでの SNS 投稿の呼びかけや、YouTube 動画の制作を行いました。この活動は、北海道新聞の連載になるなど、大きな手ごたえを感じており、これからもやり続けていければと考えています。
- 尾崎さん、佐藤さんがお話されていたように、人との出会いについては、人が人を連れてくると思います。クスろの場合は、仲間を作る時は、大々的に、一緒にやろう！とオープンさをアピールして、面白い人が集まってきました。



エ NPO 法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会 事務局長 三松 靖志 氏

- NPO 法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会は、元々は「そうべつエコミュージアム友の会」という、まち歩き、火山好きの集まりでした。有珠山がジオパークに認定されたタイミングで NPO 法人化し、会員数も上昇し、活動領域が広がっていきました。
- 大きな活動の柱は、火山のことを学び、災害を減らす文化を伝承していくことです。子どもたちの郷土学習会や、有珠山登山学習会など、今でいうアド

ベンチャートラベルのようなことを行っています。

- 2015年に北海道開発協会の助成事業を活用し、観光振興事業を行っていた際、会員がヤマブドウやオニグルミのツルの樹皮を編んで、カゴバッグを作りました。これがきっかけとなり、カゴ編みのワークショップ、観光協会窓口での作品販売などに発展しました。また、国道沿いの景観保全や、カゴバッグの販売利益の一部を清掃活動やイベントの活動資金にするなど、一石五鳥くりの活動になりました。
- カゴ編みの活動は、手工芸部会という部会に派生し、カゴの他に、藍染めや和紙のカゴの販売、東北への研修旅行まで発展しました。カゴ編みがきっかけとなり、会員の増加にもつながりました。洞爺湖有珠火山マイスターに合格し、減災文化の伝道者になる会員もでるなど、柱の活動にも良い影響が出るようになりました。
- 須藤さんが、一人に負担が集中すると、持続可能な取組とならないため、団体が継続できるような取組が必要、とお話されていました。私も、そのような展開を検討しており、来年以降は、人材育成と交流にシフトしていきたいと思います。具体的には、全国のジオパークのガイドと連携し、お互いに高め合えるような仕組みを作りたいです。

